時代・キーワード ニュースをこう読め

オジンじゃできない！浪人まわし

予備校生を中心に広まった"指先でシャープペンシル、鉛筆をまわす芸"誰も語ることのなかったこの10年ほど前からの奇妙な現象をいま初めて学問する

いくつものワザの基本となった"順まわし"

いま、新人類にはびこっているのが"浪人まわし"。70年代半ば頃、予備校などで、浪人生を中心に広まり出したのが起源といわれている。あなたのオフィスでも20代の若手社員が、きっとクルクル器用に鉛筆をまわしているはずだ。

京大理学部動物学教室で研究している細馬宏通氏（29）は、この"浪人まわし"について、予備校などで約50人を対象にアンケート調査をまとめ、11月3～5日に東京で開催された日本動物行動学会で報告した。研究を始めたのは1年半ほど前とのことだが、細馬氏はこう語るのだ。

「まだ実際、研究はこれからというところ。あまり広めたくないというのが本音です。やはりマスコミに載ってしまうと影響力が大きいですからね。記事を見て（まわし方が）画一的になってしまったりすると、調査していく上でも困りますからね。

タイプはいまのところ、5パターンわかっていますが、ちょっと、お話しするのは勘弁して下さい」

そこで、本誌は、細馬氏の代わりに"浪人まわしの達人"東大教養学部教養学科・佐々木賢一氏（23）に"浪人まわし"。5つのパターンを明かしてもらった（別図参照）。

佐々木氏が"浪人まわし"を始めたのは6年前。駿台予備学校に通っていた時、友人がクルクルまわしているのを見たことがきっかけだったという。

〈図解〉新人類を虜にした「浪人まわし」"指芸"5パターン

「やはり最初は、とにかくマスターしたいと思い、一番基本的な"順（普通）まわし"を練習しました。これは鉛筆を普通に持った状態から中指を押し出し、同時に人差し指の支えをはずし、親指の上で1回転させ、元通りの状態でキャッチするというものです。

初めのうちは、人差し指を鉛筆の後ろの部分に移動し、はじくことから練習するのが普通です」

と語る佐々木氏は、この普通まわしをマスターするのに、ほぼ2週間かかったという。

次に挑戦したのが"逆まわし"。普通まわしが反時計まわりなのに対して、こちらは逆の時計まわりとなる（右利きの場合）。

この2つのまわし方がいわば基本で、この2つを交互に連続して行なうのが"単振動"。いかにも振り子のような動きをし、実に華麗である。

普通まわしを2回連続して行なうのが"2重まわし"。

さらに鉛筆を親指の上でなく、人差し指を支点として回転させ鉛筆が立って回転しているように見える"縦まわし"。この5パターンがある

という。

「私の場合、何か考えごとをするときはこの"浪人まわし"が必要な気がしますね。1日何回まわしているか数えたことはありませんが、何百回、いや何千回もまわしていると思います」（佐々木氏）

それにしても何故、こんなアクションが新人類の間に定着しているのだろうか。東工大名誉教授（心理学）・宮城音弥氏の分析――。

「心理学用語でいえば"運動暴発"のひとつでしょう。日常生活の中で、何か欲求が満たされない、ウツウツとしたものがある時、それを解消する方法のひとつが運動暴発。

たとえば、人間では、念仏を唱えるのも運動暴発のひとつだし、よく駅のプラットホームでゴルフの素振りをしている人を見かけますね。あれはオジサン族の運動暴発でしょう。心の奥底のウツウツを多少なりともまぎらわす代償行為なんです。

昔、フラフープがハヤったことがありましたが、"浪人まわし"の流行現象も、あれと同じで運動暴発プラス同調性の産物といえるでしょう」

また、社会精神学の権威でマスコミでもおなじみの筑波大教授・小田晋氏は、こう語る。

「男の子における"浪人まわし"は女の子における"変体少女文字"と対をなしていると思いますね。

つまり、小さな新興宗教だとか、あまり知られていない店であるとか、マス・メディアにのっていないマイナーなものをありがたがるカルチャーと同じなんです。

この"浪人まわし"も、もとは予備校生というマイナー集団においてのカルチャーだったんですが、それが、いつのまにか広く受け入れられていったんです。これは"変体少女文字"と同じく70年代以降のカルチャーの特色といえるでしょう」

つまり、"浪人まわし"ブームの背景には、マイナーでナンセンスな風俗が受け入れられるという現代の文化的な傾向がかくされているというのである。

おそらく、誰か器用な人間が、ふとしたきっかけで始めたであろう"浪人まわし"。1990年代の幕開けを前にした、80年代終わりの不安ととまどいを色濃く反映しているといったら、大ゲサかな？